



子どもと過ごす遊びの時間

言葉を引き出す縁をつむぐ

profile

昭和58年1月生まれ。札幌出身。虻田地区在住。好きなものは児童文学。

Spotlight

スポットライト



ことばと発達の相談室 ゆかる
言語聴覚士

梶原 瑞穂 さん

保 育所のホールで元気にはしゃぎ回る子どもたちを見守っていたのは、健康福祉センターさわやかで今夏開設した「ことばと発達の相談室 ゆかる」の言語聴覚士、梶原瑞穂さん。明るいい声に耳を傾け、一緒に過ごす遊びの時間を大切にしながら成長を支えています。

学生時代から子どもの力になれる仕事に就くことを目標としていました。就職して小児科クリニックに勤務していた頃、言語聴覚士の仕事を知って転身を決意しました。言語聴覚士は、言葉によるコミュニケーションで言語の発達を促したり、発話などのリハビリテーションを行う専門職。梶原さんは10年ほど前に専門学校で資格を取得し、道内外の病院などで経験を積んで4年前、洞爺湖町に移住しました。コロナ禍による休止を挟んだ後、幼児健診や、ゆかるの前身となる相談室で活動しました。

ゆかるでは相談の応対に加え、保育所などにも自ら足を運びます。子どもの発達の度合いに応じ、言葉を引き出して成長につなげるのが主な役目。信頼関係の構築が重要ですが、そのための大切なコミュニケーション手段が遊ぶことです。

ゆかるには様々な個性をもつ子どもが訪れるため、遊びの中で相手に合った声掛けを考え、信頼につながる会話を重ねます。「子どもの方から『入ってきてもいいよ』と心を開いてくれることが、コミュニケーションを広げることになると思います。成長を見ることがうれしいです」と笑顔を浮かべます。

ゆかるの名称の元になった言葉は「縁」（ゆかり）。育児にまつわる悩みを抱える人も少なくない昨今「話してよかった、来てよかったと思ってもらえる場所をつくりたい」と考案されました。子どもへの想いがこもった言葉が、確かな縁をつむいでいます。

東奔西走



今 年の広報とうやこは、町民の皆さんの声をもっと届けようと「Spotlight」の掲載を昨年より増やしました。仕事や活動にかける熱意をたくさん聞くことができ、私も勉強になりました。新年も取材を通して素敵な出会いがあれば願っています。(D.Y)

2 023年も残りわずかとなりました。今年はイベントの本格開催が復活するなど、コロナ禍以前のにぎわいが戻りつつあった1年になったのではないのでしょうか。来年はさらに洞爺湖町の活気が溢れる1年になるよう、願っています。(Y.A)

今月のワンショット



虻田吹奏楽団の定期演奏会